

平成 30 年度第 2 回
関東学生ホッケー連盟役員会
議事録

期日：2018 年 4 月 26 日（木）

時間：18 時 30 分～20 時 30 分

会場：品川区総合体育館

出席者：一川邦彦、河原茂光、寺本祐治（以上副会長）、関谷淳一（監事）、久我晃広（理事長）、萬納宏俊（副理事長）、宮澤哲郎（事務局長）、白井伸一、成田健一、川口雄大、塩野谷住雄（以上常任理事）、竹内佑太（学連委員長）、樋脇彩夏（学連副委員長）、出口晴（競技委員長）、那須亮太（広報委員長）、祖山彩夏（財務委員長）、森川治門（審判委員長）、吉川菜緒（書記）、今村光成、林直樹、坂梨匡、三木実樹（以上学連委員）山下翼（早稲田大学男子）

古屋会長が欠席のため、一川副会長が代行して開催を宣言。

役員会に先立ち、日本ホッケー協会（JHA）中村事務局長よりご挨拶をいただいた。

内容は以下の通り。

2020 年東京オリンピックに向け、関東学生ホッケー連盟に協力いただきたい。今回のインカレ駒沢開催は、その布石となる。特に東京オリンピックに向け、競技ボランティアの確保が必要であり、関東学生ホッケー連盟の協力が不可欠である。

【審議事項】

1. 王座決定戦プレーオフについて

・竹内学連委員長より王座決定戦プレーオフについて説明があり、審議を行った。同内容に基づき日学連に報告することが承認された。

2. 平成 30 年度春季リーグ等の課題

・出口競技委員長より平成 30 年度春季リーグ等の課題について説明があり、審議を行った。

・東洋英和女学院大学のリーグ戦途中での棄権申し出に伴い、日程変更など詳細を審議。承認された。

・一川副会長より、上記の変更内容の掲示方法について MYHOCKEY や TWITTER 以外にも、各会場への掲示など、より「観る方」を意識した広報を行うよう指示があった。

3. インカレ実行委員会の立ち上げ

・宮澤事務局長より、インカレ実行委員会の立ち上げについて説明があり、審議を行った。

・学生が主体的に準備を行う必要があり、過去の資料等を確認し、各自が早めに準備に取り組むことを確認した。

・「第 67 回男子・第 40 回女子全日本学生ホッケー選手権大会実施要項（案）」の内容について確

認を行い、一部修正を行った。実行委員長については協議の結果、学連委員長である竹内佑太（慶應男子）が兼任することとなった。

- ・表彰への対応については7日学連の表彰規定に基づいて準備を行うことをかくにんした。
- ・開会式・監督主将会議の場所は、国立オリンピック記念青少年総合センターを既に予約済みであり、当会場で決定した。
- ・萬納副理事長（財務担当常任理事）より「第67回男子・第40回女子全日本学生ホッケー選手権大会予算書（案）」について説明があり、審議を行った。有料試合の設定をどうするか（入場料金、収入をどの程度見込むのか）について協議し、現段階では同収支を見込まない予算案である旨を確認した。その他、各会場出店可否（出店料確保の有無）、グッズ販売について確認を行う必要性がある旨を確認した。
- ・運用組織図（案）の内容について確認を行い、従前と同様の組織運営ではなく、会場ごとに動態表を作成する必要性がある旨を確認した。今年は（一昨年のインカレとは異なり）、駒沢、日吉、東伏見での運営となるため、各会場を主管する大学での木目細やかな準備（当日を迎えるまでに相当な準備）が多岐に渡ることを確認した。また、会場運営において、絶対人数の確保が必要であり、学連委委員だけでは対応できないため、早めに各大学に協力を仰ぐことを確認した。
- ・インカレ工程表について確認を行った。
- ・駒沢での日本リーグ開催にあたり作成した「日本リーグ運営体制」について確認を行い、同様の準備（人員配置）が各会場が必要であることを確認した。

【報告/連絡事項】

4. 審判講習会事業報告

- ・森川審判委員長より、審判講習会事業報告があった。
- ・寺本副会長より、TO、TDが不足している。関東学連が取りまとめて推薦するなど方策が取れないかとの問題提起があった。

5. 審判委員会運営状況報告

- ・森川審判委員長より、審判委員会運営状況について報告があった。

以上

(押印略)

関東学生ホッケー連盟副会長

一川邦彦

関東学生ホッケー連盟理事長

久我晃広

関東学生ホッケー連盟学連委員長

竹内佑太